

新会員・再転入会員の声



新採用教員を支援して
前相馬市立中村第二小学校長
佐藤 博

今年度の4月から再任用として、中村第二小学校に勤務しております。新採用教員の拠点校指導員として4校を兼務し、初任者の支援にあたっています。新採用教員の研修は、1年目に法定研修として義務づけられています。その内容は多岐にわたり、研究授業も年7回実施することになっています。私はもともと中学校の教員なので、校長として2回、小学校は経験しているものの、特に研究授業において様々な教科の指導を行うにあたっては、とても新鮮で、戸惑うこともありますが、老体には程良い刺激になり自分自身とても勉強になります。また、4月当初の初任者の指導力が研修を重ねるごとに日々成長する姿を見て、改めて人材育成の意義を感じています。「教育は人なり」です。教育者としてスタートした初任者に恥じないよう資質向上をめざしながら、自らも自己研鑽し頑張っていきたいと思います。



広島を旅して思うこと
前南相馬市立高平小学校長
箭内 晴好

多くの方々のご支援を頂きながら、無事任務を全うすることができますこと、御礼申し上げます。

以前から行ってみたかった広島の「平和記念公園」に行くことができました。「原爆の子の像」の前では、修学旅行の小学生が学校単位で、平和への誓いを読み上げたり、千羽鶴を捧げたりしていました。「広島平和記念資料館」では緊張感が漂う中、被爆資料や遺品の展示に言葉が詰まる思いでした。一様に無言になり涙ぐみながら出てくる女子中学生の姿に心を打たれ、平和教育・防災教育等の重要性を実感しました。そして、東日本大震災当時を思い出しながら「平和記念公園」を後にしました。

4月から新学習指導要領が全面実施になります。新たな教育や伝えていかなければならないことなど山積していますが、東日本大震災の経験を基にして充実した学校経営ができるよう願っています。

編 集 後 記

学習指導要領完全実施による授業時数確保のために、さらなる行事の削減やモジュールの活用など、どこの学校も創意・工夫に励んでいることと察します。また、勤務時間適正化でいかに効率的に学校運営を行うかも問われています。来年度は「令和の学校経営スタンダード」を作り上げていく創生元年としたいものです。

第130号発刊にあたり、玉稿をお寄せいただいた相馬市教育長様はじめ諸先生方に厚く御礼申し上げます。



母校で再スタートです
前相馬市立日立木小学校長
吉内 次夫

3月に退職してから早や十ヶ月、スペシャルサポートルーム担当として、中村一中で働いています。「スペシャルサポートルーム」とは、不登校生徒や、不登校傾向生徒の居場所づくり、自己実現の支援を目的とした、校内に設置する適応指導教室で、生徒の実態に応じたきめ細かな対応をすることにより、不登校生徒、不登校傾向生徒の学習機会を確保し、将来の社会的自立を目指すという目的で、今年度から始まった事業です。

陶潛の『雜詩』「盛年の重ねて來たらず、一日再びあしたなり難し、時に及んで當に勉励すべし、歲月人を待たず」（若いときは二度と來ない、一日に朝は二度と來ない、時を逃がさず一瞬を大切にして勉学に励めよ）とあります。今の仕事は、今までの経験が生かされることばかりとは限りません。日々が学習です。これからも宜しくお願ひいたします。



つながり
前南相馬市立石神第一小学校長
古田 研寿

退職してもうすぐ1年が経つ。退職してすぐは、今頃は運動会の練習かな？とか、学期末で忙しいだろうな、とか考えたものだが、1年も過ぎると、勤務していたころの時間の節目を感じることがなくなりつつある。

さて、郡山に居を構えて5年を迎える。本来であれば、浪江で米や野菜を作り、晴耕雨読の日々を送るはずだったが残念ながらそうはいかず。

近所の皆さんともあいさつ程度の付き合いなので、できるだけ町内会の行事には参加し交流を深めようと努力している。そんな中、以前の上司の家に招待されたり、たまにゴルフの誘いを受けたりして、郡山在住の先輩や同僚と親交を深めている。

故郷を離れて生活している者にとっては大変うれしいことである。教員生活での人ととのつながりを大切にして、これからも生活していきたい。



防災計画を見直すにあたって
相馬市教育委員会教育長
堀川 利夫

昨年10月の台風19号、2週間後の集中豪雨は、相馬市に甚大な被害をもたらしました。多くの市民が、今後もこのような自然災害が繰り返されるのではないかと不安を感じているようです。防災対策について、これまで以上に力を入れていく必要があるでしょう。

今回、市の災害対策会議に加わり、適切でスピーディーな判断・対応のためには、「地域のことをよく知ること」が基本であると実感しました。

「〇〇橋が流され、〇〇地区に孤立している人がいます。」「〇〇川の左側が決壊しました。」「市道〇〇線が冠水のため通行不能。」との説明があっても、孤立した地域に児童生徒はいるのか、左側とはどこか、冠水した道路は児童生徒の通学路なのか等すぐには分からぬことが多いあるのを体験し、地域のことをもっと詳しく知らなければならぬと思いました。

市町村内の細部についてくまなく知ることは、不可能かもしれません。しかし、各学校では、せめて学区内の地域名、川の名前や様子、道路名、地域の状況（たぬ池がある、ダムが近い、学校の海拔、過去の被害の様子等）を知っておくことは、自然災害対応として必要なことではないでしょうか。

今、管理職として配属される地域が、初めて生活する場所になる校長先生が多くなっています。校長として的確な判断ができるようになるためにも、是非、防災に係る上記のような地域情報を知り、次年度の防災計画を見直してほしいと思っております。



努力は嘘をつく
南相馬市立原町第三小学校
村田 権一

二十代から三十代にかけて、合奏部の顧問をしていたことがある。七十名ほどの子供たちと管弦楽の演奏に取り組んでいた。今になって考えれば、弦楽器の経験はほとんど無く、かろうじて合唱と金管楽器の経験がわずかにある程度の私に、大変な責任が与えられていたことに気付かされた。

一年の殆どを、子供たちと練習に明け暮れていた。夏休みは、弁当持参、学習の時間を設定する等して活動していたことが、暑い体育館の空気と共に思い出される。練習量の多さが良い演奏、更にはコンクールでの良い結果つながると信じて疑わなかった。あるコンクールで上位大会に進めない結果が発表されたとき、自分も子供たちも保護者もみんなで泣いた。その時の一人の子どもの言葉が忘れられない。「先生は努力は嘘をつかないと言ったじゃないですか。あんなに練習した私たちが、勝ち上がれないのはなぜですか。」子どものこの問いに、一言も答えることができなかった。

しかし、今ならこう答えるのではないだろうか。「悔しい結果だったが、努力したこと自体が無駄ではない。この努力が、将来必ず君たちの人生に良い影響を及ぼす。」何年か前に地区の音楽コンクールで挨拶する機会を頂いた。その時にも「努力は嘘をつく」という話をした。会場を去ろうとしたとき、一人の保護者が近づいてきて、「話を聞いて、納得しました。努力した後の行動が大切なですね。」この一言で、何十年か前に子供たちに言ってあげられなかった後悔が、少し軽くなっていくのを感じた。その保護者が、丁度その子供たちが成長した年齢に近いのも偶然でないような気がした。私たちが子供たちに努力の大切さを指導することは多いが、子供の将来を見据えた、努力の大切さを指導したいものである。

私の学校経営

までの里、そして希望の里へ

飯館村立草野・飯樋・臼石小学校 吉川 武彦

「よりよい未来を自分たちの力で創る子ども」

これが、飯館3小学校の教育目標であり、2年前から本村で学校再開を果たしてから、こども園・小学校・中学校で共通に掲げている教育目標です。

草野・飯樋・臼石小3校は震災後、2018年3月まで隣接した川俣町内の仮設校舎にて合同で学習。4月に7年ぶりで飯館村内で3校+中学校とともに学校再開を果たしました。同一敷地内には同時期に新設された、までの里のこども園があり、0歳から15歳までがこの同じ教育目標で学んでいます。学校再開後、新たな取組みとして実施してきたものの中に園小中合同での運動会や学習発表会があります。例えば運動会。それまで保育所や幼稚園は秋、小学校は春に実施、中学校は実施していませんでしたので、ねらいや内容、時間設定等々、細部に渡り共通理解が必要でした。しかし「いいたてっ子は一

学校紹介

地域に根ざし、伝統を支える

相馬市立中村第二小学校 佐藤 和子

民謡の里である相馬市は教育活動に民謡を積極的に取り入れています。「相馬盆踊り」はよく知られていますが、本校では地元の方の指導を受け「原釜大漁祝い唄」を全校生で踊ります。運動会には、大人と対になり、校庭いっぱいに広がって大漁を祝い軽やかに跳ね踊る様は実に壯觀です。

また、祝い唄等をもとにした「原釜太鼓」も伝統として引き継がれています。4年生以上の子ども達が毎週練習し機会を捉え演奏活動を行っています。

中村二小学区においては、基幹産業としての漁業の位置づけはやはり大きく、震災後0となった水揚げ量は、復興に向け多くの方が苦労し努力を重ね、確実に増えてきています。人々の姿から「報徳の訓え」が礎となっていることを考えさせられます。

本校では、このような地域の現状や特色を学ぶふるさと学習を各学年に位置づけ、学校全体として取

つ、「子供は村の希望」との想いで園小中の教職員が力を合わせ、地域が望む大運動会を成功させることができました。子供たちの笑顔はもちろん、村民の笑顔が印象的で、実現できた充実感は一入でした。

3小学校は中学校とともに2020年3月に146年の歴史を閉じ、4月から義務教育学校「いいたて希望の里学園」として生まれ変わります。村が寄せる期待とともに、未来を自分たちで創ることができる子供の育成のために今後も邁進していきます。



り組んでいるところです。生活科では、松川浦環境公園に花苗を植え、海水浴場を探検します。総合学習では、のり工場や相馬漁港、漁協などを見学し漁業体験も行います。地域の方は大変協力的で様々に交流が生まれているのはうれしい限りです。

地元のくらしや仕事に関心を持ち、地域を知り、地域の人々の想いを聞き、これから相馬の未来を考える。ふるさと学習は、海風に育まれた子ども達の未来のために大切にしていきたい学習です。



隨想

思いを込めて

南相馬市立八沢小学校 高橋 恵子

校長として赴任した学校は、全校生25名の小規模校でした。始業式までの日々、子どもたちとの出会いをとても楽しみにしていました。

出会いの日。体育館の前の方にこぢんまりと並んだ子どもたちでしたが、いざ式の中で校歌を歌い出すとその声量の大きさに驚かされ、小さな体がひとまわりもふたまわりも大きく見えました。入学式の時には校歌の他に、式の最後に自分達の学校のテーマソングを歌うことになっていて、曲が鳴ると子どもたちが動き出し、ステージの前に並び肩を組み体をうねらせて歌い始めました。その姿にただただ圧倒されるばかりでした。

東日本大震災の後、その学校は劇団の人達の支援を受けてミュージカルに取り組み、東京などで上演した経験がありました。その経験をもつ子どもたちは歌うこと・演じることに自信をもっていたのです。経験のない下級生も、上級生の自信ある姿を見てまねて上達していました。そのため、集会活動や発表会など機会あるごとにみんなで歌を歌ってきました。

ある日歌唱指導の先生が訪れ、いつも通り元気に歌う子どもたちに「歌詞を歌うだけではダメだ。どんな想いを伝えたいのか、言葉に込めて歌わないとなれない。」と話されました。歌だけではなく、言葉に想いが込められていないと、相手にきちんと伝わらないということです。

最近では、文字やアイコンだけのやりとりが多く、想いがなかなか伝わらずトラブルになることがあります。まずは、相手を前にした元気なあいさつと大きな声での返事がコミュニケーションの第一歩と思い、子どもたちに声をかけ続けています。



趣味は授業研究！

新地町立福田小学校 島和宏

「もう、直しません。」

新採用でいわきに赴任し、一問一答の授業に自信を持ち、児童に意図した発言をさせるのが得意だと慢心していた私に、当時の校長先生は「子どもに間違ひをさせないと・・・。そのことばから話し合いの出来るクラスを目指して日々授業研究。論争できる児童の育成に本気になり、二校目の小学校の教務主任の先生に五度目の授業案修正案を提出したところでした。若さとは言え本当に失礼な態度でした。

この時の教務主任の先生は、子どもはどうあれ押しつけ指導をしている私に、実態を捉えることの大切さを教えてくださった方でした。研究授業後は毎回、12時まで生意気な私につきあい熱く授業についてお教えいただき、お酒を飲ませていただきました。今、振り返ると罰当たりな気持ちでいっぱいになります。「なんで、こんな生意気なやつに酒をおごらなくちゃいけないんだ」「でも、一生懸命だな」といつも励ましていただきました。

テレビでは、若者が会社の忘年会への参加を嫌がり、年代を超えた会話が難しい時代になってきたようです。働き方改革のためではないでしょうが、学校の飲み会で、授業の話題はしにくい雰囲気を感じます。我々大量採用の教員として切磋琢磨してきた時代は正に終わろうとしています。

同時に大量採用時代が始まり、教育の質の維持が重要な課題となっています。熱く授業を考え、独自の理論を掲げ、鎬の削り合いが自然に生まれる新たな教育の時代が始まらないか、「趣味は授業研究！」そんなことが人前で堂々と言える時代がまた来ないかと密かに想っています。

